

2023(令和5)年7月20日

報道発表資料[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



右写真2点 『バラ色ダンス 純粋性愛批判』序章(2022)より ©bozzo

60年代暗黒舞踏の初期代表作とクィアな美意識を足がかりに、
明日の舞踏(ダンス)を妄想する

川口隆夫「バラ色ダンス 純粋性愛批判」京都公演

構成・演出・振付: 川口隆夫

出演: 三浦一壮、川村美紀子、藤田真之助、三好彼流、川口隆夫

音楽: 梅原徹、小野龍一、松丸契

2023年8月26日(土)、27日(日)

ロームシアター京都 ノースホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当: 松本、山形、加藤
電話: 075-771-6051 (10:00~17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

ロームシアター京都では2023年8月26日(土)、27日(日)に川口隆夫「バラ色ダンス 純粋性愛批判」を開催いたします。パフォーマンスの幅広い可能性を追求し、国内外で高い評価を得る川口隆夫。これまで活動の核に据えてきたアイデンティティやジェンダーに関わる問題意識と、近年集中的にリサーチに取り組んでいる「舞踏」の二つを軸に新作に挑みます。

■川口隆夫「バラ色ダンス 純粋性愛批判」について

『バラ色ダンス』(1965)を出発点に、カワグチタカオに誘い込まれた出自も世代もごちゃ混ぜの異才たちが、底抜けに明るい暗黒ショウを妄創する！

日本発の前衛的身体表現である舞踏を生み育んだ60年代は、政治や社会が大きく揺れ動く中、全てが混沌とした熱気を帯びていた時代でした。カウンターカルチャー真っ盛りで、名付け得ぬものが溢れていた当時の感性を形容する言葉のひとつが「キャンプ」(Camp)です。

本作では、暗黒舞踏の創始者のひとり・土方巽(ひじかた たつみ)が綺羅星の如き前衛芸術家と創り上げた代表作『バラ色ダンス——A LA MAISON DE M. CIVEÇAWA』

(1965)を徹底的にリサーチし、60～70年代に欧米のゲイカルチャーを中心に隆盛を極めた「Camp」の感性を引きながら、歴史をノスタルジックに回顧するのでも神格化するのでもなく、現代の視点からクリティカルに検証し、21世紀のダンスに新たな可能性を切り拓きます。

また今回川口と共演するのは、多様なバックグラウンドをもつ、幅広い世代のコラボレーター。ジャンルを超えて多面的な活動を展開する川村美紀子、舞踏 創生期を肌で知る80代の舞踏家・三浦一壮、リアルタイムでは舞踏をほぼ知らない20代のパフォーマー・藤田真之助と三好彼流です。さらに映像作家 仁山裕斗や音楽家 梅原徹、小野龍一、松丸契、なども巻き込み、対話と実験を重ねながら、従来の舞台芸術の枠には収まらない発表形態を共に模索していきます。予定調和ではなく、互いに侵犯しあい、エネルギーから渦を巻くようなコラボレーションを志向します。

舞踏(BUTOH)とは？

戦後日本で、土方巽を創始者として土方や彼の弟子たちの活動を中心とした生まれた前衛的な身体表現。1920年代のドイツ・モダンダンスを源流に、西洋の舞踊概念とも異なる独自の境地を切り開いた。土方巽「禁色」(1959)がその出発点とされる。70年代後半より「BUTOH」の名で世界中に広まり、土方自身が踊らなくなった後も、大野一雄や笠井叡ら60年代から活躍している作家や、磨赤兒(大駱駝艦)、天児牛大(山海塾)、和栗由紀夫(好善社)、大須賀勇(白虎社)、室伏鴻(背火)、玉野黄市(哈爾賓派)など土方の弟子たちの活動によって、国内のみならず国際的な評価を得るようになった。現在では世界各地で舞踏フェスティバルが催されているほか、学校教育の授業や教科書でも取り上げられている。



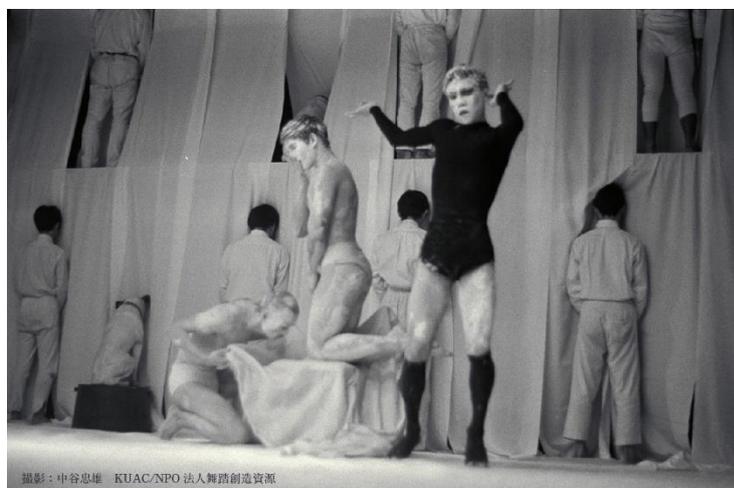
©bozzo

キャンプ(Camp)とは？

自然な規範(例えば自然な「美」を好む規範)に抗い、誇張・逸脱・倒錯など歪な不自然さを好む感性。元々はゲイカルチャーに由来し、1964年にスーザン・ソントグが「《キャンプ》についてのノート」を発表したことで、広く知られるようになった。2018年のコム・デ・ギャルソンのショーや2019年のMETガラのテーマに「キャンプ」が選ばれ、今再び注目が集まっている。

『バラ色ダンス——A LA MAISON DE M. CIVEÇAWA』(1965)とは？

後に舞踏の創始者と称されるようになる土方巽の60年代の代表作。「澁澤さん家の方へ」という副題のとおり、澁澤龍彦へのオマージュとなっている。大野一雄、大野慶人、石井満隆、笠井勲、玉野黄市ら舞踏家に加え、中西夏之、横尾忠則、加納光於、赤瀬川原平など、時代の最先端をゆく美術家・音楽家が参加する実験的コラボレーション作品となった。また、開くと金箔が飛び散る案内状、砂糖菓子製のプログラムなど、舞台上以外にも様々な仕掛けが凝らされていた。



撮影：中谷忠雄 KUAC/NPO 法人舞踏創造資源



撮影：中谷忠雄 KUAC/NPO 法人舞踏創造資源

赤瀬川原平「易断面相図幕 肋膜判断」と土方巽『バラ色ダンス—A LA MAISON DE M. CIVEÇAWA』(1965) 撮影：中谷忠雄
画像提供：慶應義塾大学アート・センター/NPO法人舞踏創造資源

■「バラ色ダンス 纯粹性愛批判」関連コラム

《バラ色ダンス》についてのノート

文：呉宮百合香(「バラ色ダンスプロジェクト」ドラマトウルク)

https://rohmtheatrekkyoto.jp/archives/column_barairdance_kuremiya/

■プロフィール

川口隆夫 | Takao Kawaguchi

1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。2000年よりソロ活動を開始し、演劇・ダンス・映像・美術をまたいでパフォーマンスの幅広い可能性を追求する。08年より私的パフォーマンスシリーズ『a perfect life』を展開し、13年に第5回恵比寿映像祭に参加。近年は舞踏に関するパフォーマンス作品『ザ・シック・ダンサー』(田辺知美と共に、12年)、『大野一雄について』(13年)を発表。後者はニューヨーク・ベッシー賞にノミネートされ、18年にはナリ市立劇場でも上演された。令和三年度文化庁芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



© Hiroki Obara

川村美紀子 | Mikiko Kawamura

振付家/ダンサー。東京都出身。2011年より国内の新人賞を総なめにし、コンテンポラリーダンス界の新鋭としてデビュー。「どこからかの惑星から落下してきたようなダンス界のアンファン・テリブル」(Dance New Air 2014/石井達朗氏)とも紹介されるその活動は、劇場にとどまらず屋外やライブイベントでのパフォーマンス、映像・音楽制作、アクセサリー製作など多彩に展開。15ヶ国31都市で活動を重ね、16年にはフランス国立ダンスセンター・CCN/Rを拠点に滞在制作を行う。日本女子体育大学舞踊学専攻卒。飯名尚人+川口隆夫+川村美紀子+松岡大『三』(2021)では、土方巽『瘡瘡譚』の一部を踊った。

三浦一壮 | Issu Miura

舞踏家。1937年生まれ。62年、日本マイム研究所で及川廣信、大野一雄、安堂信也と出会う。65年、ケイタケイ、西森守とVAV結成。「傾斜の存在」(音楽:一柳慧、小杉武久 美術:石井賢俊)。72年、舞踏舎設立。「闘牛鑑」「獣道」(美術:ワダエミ)、77年、ナンシー演劇祭にて「門」上演、フランス・イタリアを巡演。79年、ローマでエウジェニア・バルバ、グロトフスキーのインターナショナルワークショップ招聘。美術品バイヤーを経て、2018年、ペルーの同ワークショップ招聘、除夜舞出演をきっかけに舞台に復活。

藤田真之助 | Shinnosuke Fujita

1999年10月12日生まれ。ラップ、トラックメイクを2年前に始める。その1年後、暗黒舞踏やコンテンポラリーダンスへの出逢いをきっかけに、踊りの世界へと活動範囲を広める舞踏を始めた動機:ビショップ山田、長谷川希誉子らの公演「井の中の恍惚に向かって」を見て衝撃を受けました。その後、彼らが行うワークショップへの参加をきっかけに、舞踏を始めることにしました。

三好彼流 | Karu Miyoshi

パフォーマンスアーティスト。東京を拠点とし、絵画、彫刻、外ウー、音楽などさまざまなメディアを用いて活動。装置を用いて身体と接続させたパフォーマンスを行う。参加した主な企画に「We (you) are beautiful」(新大久保UGO)、「群馬青年ビエンナーレ」(群馬県立近代美術館)、「stillive Performance Art Summit Tokyo 2022」(ゲーテ・インスティテュート東京)などがある。

■公演情報

バラ色ダンス 純粋性愛批判 京都公演

日時:8月26日(土)19:00開演☆、27日(日)15:00開演★

会場:ロームシアター京都 ノースホール

☆8月26日(土)19:00回終演後、アフタートークを開催いたします。

登壇者:川口隆夫×シモーヌ深雪

※トークは27日(日)15:00公演のチケットをお持ちのお客様もご参加いただけます。

★託児あり。詳細はロームシアター京都WEBサイトをご確認ください。

上演時間:約1時間30分

出演・スタッフ:

構成・演出・振付:川口隆夫

出演:三浦一壮、川村美紀子、藤田真之助、三好彼流、川口隆夫

音楽:梅原徹、小野龍一、松丸契

ドラマトウルク:呉宮百合香

衣裳:北村教子

映像制作:合同会社NOTEA

照明:中山奈美

映像オペレーション:仁山裕斗

舞台監督:原口佳子

舞台部:前田淳

チーフアシスタント:津田犬太郎

プロデューサー:高樹光一郎

宣伝美術:北風総貴(ヤング荘)

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

企画制作:一般社団法人ハイウッド

助成:文化庁文化芸術振興費補助金

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力:笠井穀・笠井久子(天使館)、土方巽アスベスト館、NPO法人舞踏創造資源、土方巽・中西夏之メモリアル猿橋倉庫、ゲーテ・インスティテウト東京、慶應義塾大学アート・センター、城崎国際アートセンター(豊岡市)、公益財団法人セゾン文化財団、吉本大輔/天空揺籃

チケット情報 [好評発売中]

全席自由／一般3,500円、ユース(25歳以下)2,000円、18歳以下1,000円

※ユース、18歳以下チケットをご購入の方は、公演当日、年齢が確認できる証明書のご提示が必要です。

※未就学児入場不可。12歳以下は保護者同伴の上、ご来場ください。

チケット取扱:

■オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料) <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

■ロームシアター京都チケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-746-3201(10:00~17:00、年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)]

■京都コンサートホールチケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-711-3231(10:00~17:00、第1・3月曜休 ※祝日の場合は翌日)]

■e+(イープラス) <https://eplus.jp/barairo/>

お問合せ:ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

公演WEBページ:<https://rohmtheatrekkyoto.jp/event/103516/>

■関連企画 映像プログラム「日本的〈キャンプ〉の水脈」

キュレーション:鈴木章浩(Art Saloon)

上映作品:

・『貴夜夢富(キャンプ)』(1970年)監督:岡部道男

・「高田冬彦 短編集」(2010年代)監督:高田冬彦

土方巽の生み出した『バラ色ダンス』の挑発と混沌の美学は、〈キャンプ〉的な美意識とともに、アンダーグラウンドの世界で脈々と受け継がれている。現代を撃つ、〈キャンプ〉でラディカルな映像作品を特集上映。

日時:2023年8月27日(日)12:00~

会場:ロームシアター京都 ノースホール

申込不要・入場料500円

※「バラ色ダンス 純粋性愛批判」京都公演のチケットをお持ちの方は無料。

※当日、会場にて料金をお支払いください。

■他地域での公演

〈東京〉8月9日(水)~11日(金・祝) 劇場 東京・両国 シアターXカイ

〈那覇〉2023年9月2日(土)、3日(日) 那覇文化芸術劇場 なはーと 小劇場

ツアー詳細:<https://www.rosentanz.com/>